



(様式第 10)

北里病発第 2019-108 号

2019 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 北
理事長 小林 弘

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒108-8641 東京都港区白金五丁目 9 番 1 号
氏 名	学校法人 北里研究所

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

北里大学病院

3 所在の場所

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里一丁目 1 5 番 1 号	電話(042) 778 - 8111
--	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科	②消化器内科
③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科
⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科
⑪リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 ④心臓外科 ⑤血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 小児心臓血管外科 2 形成外科 3 美容外科 4 臨床検査科 5 病理診断科 6 リハビリテーション科 7 頭頸部外科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	1,033床	1,033床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	345人	174人	377.3人	看護補助者	76人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	2人	2人	2.4人	理学療法士	29人	臨床検査技師	127人
薬剤師	99人	5人	101.7人	作業療法士	9人	衛生検査技師	0人
保健師	14人	0人	14人	視能訓練士	15人	その他	0人
助産師	53人	0人	53人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,319人	13人	1,325.5人	臨床工学士	42人	医療社会事業従事者	18人
准看護師	1人	0人	1人	栄養士	0人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	0人	事務職員	214人
管理栄養士	35人	1人	35.9人	診療放射線技師	82人	その他の職員	119人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	56人	眼科専門医	17人
外科専門医	44人	耳鼻咽喉科専門医	14人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	18人
泌尿器科専門医	14人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	17人	救急科専門医	12人
		合 計	261人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (岩村 正嗣) 任命年月日 平成 30 年 7 月 1 日

平成 27 年 7 月から平成 30 年 6 月まで、副院長 (診療担当) ・診療部長に就任していた。
 また、リスクマネジメント委員会の構成員としての業務に従事している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	872人	0人	872人
1日当たり平均外来患者数	2,244.8人	27.7人	2,272.5人
1日当たり平均調剤数			2,126 剤
必要医師数			222人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			30人
必要(准)看護師数			511人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,125 m ²		病床数	72床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 212.22 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	20 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 67.30 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	228.87m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	159.02m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) オートクレーブ、全自動同定感受性装置、安全キャビネット、孵卵器			
病理検査室	521.58m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ラミナーテーブル、切り出し台、撮影装置、顕微鏡、遠心器、遺伝子解析装置、PCR、VIP、自動染色装置、自動封入装置、包埋センター			
病理解剖室	316.90m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台、切り出し台、ラミナーテーブル、撮影装置			
研究室	4,946.80m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細胞解析装置、マイクローム、電子顕微鏡超低温フリーザ、高速冷却遠心機			
講義室	2,952.67m ²	鉄筋コンクリート	室数	27 室	収容定員	2,248 人
図書室	3,052.23m ²		室数	2 室	蔵書数	19万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.4%	逆紹介率	69.7%
算出根拠	A：紹介患者の数		24,393人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		21,285人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,617人
	D：初診の患者の数		30,536人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
平原 史樹	横浜市病院経営本部長	○	大学病院等の医療機関における医療安全業務の経験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	医療に係る安全管理に関する識見を有する者
海野 宏行	みなと綜合法律事務所		弁護士としての経験。	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	法律に関する識見を有する者
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML		医療現場により良いコミュニケーションを築く豊富な活動経験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	医療を受ける者
和田 仁孝	早稲田大学大学院 法務研究科		医療メディエーターとしての豊富な経験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	学識経験を有する者
花井 恵子	神奈川県看護協会		大学病院における医療安全業務の経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	医療に係る安全管理に関する識見を有する者

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 法人ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	20人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。
(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法 急性脳梗塞(当該疾病の症状の発症時刻が明らかでない場合に限る。)	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	1人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	56	ベーチェット病	120
2	筋萎縮性側索硬化症	37	57	特発性拡張型心筋症	129
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	14
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	15	60	再生不良性貧血	49
6	パーキンソン病	304	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	88
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	204	66	IgA腎症	33
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	38
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	150	68	黄色靱帯骨化症	13
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	22	69	後縦靱帯骨化症	77
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	97
17	多系統萎縮症	31	72	下垂体性ADH分泌異常症	21
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	66	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	8	74	下垂体性PRL分泌亢進症	6
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	16	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	34	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	33
23	プリオン病	3	78	下垂体前葉機能低下症	143
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	3
28	全身性アミロイドーシス	8	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	80
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	51
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	28
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	25
34	神経線維腫症	17	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	34	90	網膜色素変性症	29
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	7
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	66
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	8
40	高安動脈炎	36	95	自己免疫性肝炎	19
41	巨細胞性動脈炎	5	96	クローン病	302
42	結節性多発動脈炎	22	97	潰瘍性大腸炎	551
43	顕微鏡的多発血管炎	65	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	20	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	26	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	26	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	10	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	7	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	609	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	192	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	189	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	85	107	全身型若年性特発性関節炎	5
53	シエーグレン症候群	44	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	17	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	1	161 家族性良性慢性天疱瘡	1
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	21
113 筋ジストロフィー	10	163 特発性後天性全身性無汗症	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164 眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165 肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	2	167 マルフアン症候群	8
118 脊髄髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	0	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	0
122 脳表ヘモジデリン沈着症	2	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	1
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ベリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	0	177 有馬症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184 アントレー・ビクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスマンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠神てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 プラダー・ウィリ症候群	1
144 レノックス・ガストー症候群	0	194 ソトス症候群	0
145 ウェスト症候群	0	195 ヌーナン症候群	0
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マジニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	1	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	4	208 修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0	209 完全大血管転位症	1
160 先天性魚鱗癬	0	210 単心室症	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	1
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	8	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
222	一次性ネフローゼ症候群	51	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	6	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	7	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	22
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	3
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	1
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316	カルニチン回路異常症	1	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	入退院支援加算1・3
歯科外来診療環境体制加算1	地域連携診療計画加算
特定機能病院入院基本料 一般病棟7対1入院基本料	入院時支援加算
超急性期脳卒中加算	精神疾患診療体制加算
診療録管理体制加算1	救命救急入院料1・4
医師事務作業補助体制加算1(30対1)	特定集中治療室管理料1
急性期看護補助体制加算(25対1)	早期離床・リハビリテーション加算
看護職員夜間配置加算(12対1加算1)	ハイケアユニット入院医療管理料1・2
療養環境加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
重症者等療養環境特別加算	小児特定集中治療室管理料
無菌治療室管理加算1・2	総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児)(新生児)
緩和ケア診療加算	小児入院管理料1
精神科リエゾンチーム加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
感染防止対策地域連携加算	
抗菌薬適正使用支援加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
呼吸ケアチーム加算	
後発医薬品使用体制加算2	
病棟薬剤業務実施工算1・2	
データ提出加算2のイ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	HPV核酸検出
腎代替療法実績加算	検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)
糖尿病合併症管理料	国際標準検査管理加算
がん性疼痛緩和指導管理料	遺伝カウンセリング加算
がん患者指導管理料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
外来緩和ケア管理料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
移植後患者指導管理料	胎児心エコー法
糖尿病透析予防指導管理料	ヘッドアップティルト試験
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	皮下連続式グルコース測定
外来放射線照射診療料	長期継続頭蓋内脳波検査
ニコチン依存症管理料	神経学的検査
療養・就労両立支援指導料	補聴器適合検査
ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)・(Ⅱ)	ロービジョン検査判断料
がん治療連携計画策定料	小児食物アレルギー負荷検査
排尿自立指導料	内服・点滴誘発試験
肝炎インターフェロン治療計画料	センチネルリンパ節生検(片側)
薬剤管理指導料	画像診断管理加算1・3
医療機器安全管理料1・2	ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	CT撮影及びMRI撮影
歯科治療時医療管理料	冠動脈CT撮影加算
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	外傷全身CT加算
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	心臓MRI撮影加算
持続血糖測定器加算	乳房MRI撮影加算
遺伝学的検査	小児鎮静下MRI撮影加算
骨髄微小残存病変量測定	頭部MRI撮影加算
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	抗悪性腫瘍剤処方管理加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来化学療法加算1	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
無菌製剤処理料	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱に対して実施する場合)
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に限る))
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	羊膜移植術
運動器リハビリテーション料(I)	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
呼吸器リハビリテーション料(I)	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
難病患者リハビリテーション料	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
がん患者リハビリテーション料	網膜再建術
リンパ浮腫複合的治療料	人工内耳植込術
集団コミュニケーション療法料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
歯科口腔リハビリテーション料2	上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療以外の診療に係るものに限る)
通院・在宅精神療法	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
硬膜外自家血注入	乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
人工腎臓・慢性維持透析	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
導入期加算2	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
透析液水質確保加算	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
磁気による膀胱等刺激法	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
CAD/CAM冠	胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	経カテーテル大動脈弁置換術
皮膚移植術(死体)	経皮的僧帽弁クリップ術
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)	胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	経皮的な中隔心筋焼灼術
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカーの場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	人工尿道括約筋植込・置換術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	胎児胸腔・羊水腔シャント術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	輸血管管理料 I
補助人工心臓	貯血式自己血輸血管管理体加算
小児補助人工心臓	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	レーザー機器加算の施設基準
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	麻酔管理料(I)・(II)
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	放射線治療専任加算
バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	外来放射線治療加算
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下肝切除術	1回線量増加加算
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	体外照射呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	定位放射線治療
腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	画像誘導密封小線源治療加算
同種死体腎移植術	保険医療機関間の連携による病理診断
生体腎移植術	病理診断管理加算2
膀胱水圧拡張術	悪性腫瘍病理組織標本加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	クラウン・ブリッジ維持管理料
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	歯科矯正診断料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	①剖検例CPC(35回)、②肉眼剖検所見検討会(18回)、 ③外科病理症例検討会(9回)、④がんボード(12回)、 ⑤呼吸器外科カンファレンス(8回)
剖検の状況	剖検症例数 39 例 / 剖検率 4.1 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	元
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療と最適化標準治療に関する研究	小泉 和二郎	消化器内科	400,000円	補 ⑤ 委	AMED
難治性食道がんの治療方針決定に資する技術開発に関する研究	堅田 親利	消化器内科	195,000円	補 ⑤ 委	AMED
「ALDH2/ADH1B遺伝子型とヨード不染帯に基づく食道癌のリスクと予防の確立」	堅田 親利	消化器内科	1,600,000円	補 ⑤ 委	文部省科学研究費
糖尿病合併冠動脈疾患レジストリを基盤としたコルヒチン第3相検証的試験の実施とRCTonRegistryに向けたレジストリデータの品質管理と標準化に関する研究	阿古 潤哉	消化器内科	1,007,752円	補 ⑤ 委	日本医療研究開発機構
自己免疫性脳炎および自己免疫性てんかんにおける抗神経細胞表面抗原抗体の臨床的意義に関する研究	飯塚 高浩	脳神経内科	533,333円	補 ⑤ 委	公益財団法人てんかん治療研究振興財団
治験の実施に関する研究「ペランパネル」	永井 真貴子	脳神経内科	400,000円	補 ⑤ 委	AMED
大量メチルコバラミン筋注によるALSの治療薬開発研究	永井 真貴子	脳神経内科	800,000円	補 ⑤ 委	AMED
患者レジストリを活用した筋萎縮性側索硬化症治療薬開発のための医師主導治験	永井 真貴子	脳神経内科	1,000,000円	補 ⑤ 委	AMED
関節リウマチ病態に関与する新規分子MS4A4Aの機能解明と臨床応用の検討	山岡 邦宏	膠原病・感染内科	1,909,091円	補 ⑤ 委	文部科学省
関節リウマチの活動性と相関する新規分子MS4A4Aを標的とした創薬	山岡 邦宏	膠原病・感染内科	1,500,000円	補 ⑤ 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自己免疫疾患に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	400,000円	補 ⑤ 委	厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	400,000円	補 ⑤ 委	厚生労働省
自己毛包幹細胞由来の心筋シートや幹細胞を用いた心不全と神経損傷部の再生医療	天羽 康之	皮膚科	650,000円	補 ⑤ 委	2016-2018年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)
放射線治療における3次元スキャナーを使用した位置補正機能と患者情報取得機能の開発	早田 格	放射線治療科	1,040,000円	補 ⑤ 委	学術研究助成基金助成金

安全な子宮頸癌治療に向けた小線源治療専用の品質管理ツールの開発	野澤 茉莉花	放射線治療科	1,170,000円	補 委	学術研究 助成基金 助成金
エピジェネティックマーカーを用いた新しい胃癌洗浄細胞診の開発	山下 継史	上部消化管外科	1,300,000円	補 委	
大腸癌臨床でのメチル化DNAマーカーを用いたLiquid Biopsyの開発	渡邊 昌彦	下部消化管外科	1,100,000円	補 委	日本学術 振興会(文 部科学省)
新規肺腺がん細胞株を用いたがん浸潤・転移機構の解析	佐藤 之俊	呼吸器外科	1,430,000円	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
マウス中皮腫モデルを用いた胸腔内治療法及び中皮腫の新規バイオマーカーの探索	塩見 和	呼吸器外科	1,430,000円	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
片肺全摘後の代償性肺再生における骨髄由来VEGFR1陽性幹細胞の役割	松井 啓夫	呼吸器外科	1,430,000円	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	原 純一	大阪市立総合医療センター	115,385円	補 委	日本医療 研究開発 機構
希少・難治小児脳幹部神経膠腫に対する塩酸ニムスチン局所投薬による新規治療	富永 悌二	東北大学	766,000円	補 委	日本医療 研究開発 機構
中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するテモゾロミドを用いた標準治療確立に関する研究	西川 亮	西川 亮	200,000円	補 委	日本医療 研究開発 機構
頸部癌に対するREV7発現と新規治療標的としての意義	山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000円	補 委	文部科学 省
膀胱癌関連蛋白質の検出および予後予測因子の確立と診断・治療アルゴリズムの開発	松本和将	泌尿器科	1,400,000円	補 委	文部科学 省
腎盂・尿管癌における臨床病理学的因子の検討とそれを用いた予後に関する臨床応用	村上泰清	泌尿器科	200,000円	補 委	医学部け やき会
早期子宮頸がんに対する機能温存低侵襲手術の確立に関する研究	恩田 貴志	婦人科	1,500,000円	補 委	AMED
進行・再発子宮頸癌の予後向上を目指した集学的治療の開発	恩田 貴志	婦人科	260,000円	補 委	AMED
リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する標準的リンパ節郭清確立のための多施設共同臨床試験	恩田 貴志	婦人科	338,000円	補 委	AMED
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	恩田 貴志	婦人科	1,000,000円	補 委	AMED

ニコチンが胚の子宮内膜着床に与える影響についての検討	吉野 修	婦人科	2,000,000円	補委	喫煙科学財団
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の確立	石倉 健司	小児科	24,050,000円	補委	厚生労働科学研究費
極低出生体重児における慢性腎臓病発症のリスクファクターの検討—全国疫学調査—	上村 治	一宮医療センター	130,000円	補委	文部科学省 科学研究費
小児難治性頻回再発型・ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験	飯島 一誠	神戸大学	1,950,000円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

計 34

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Okuwaki K, Yamauchi H, Kida M, Imaizumi H, Iwai T, Matsumoto T, Kawaguchi Y, Uehara K, Nakatani S, Koizumi W.	消化器内科	Efficacy and Long-Term Outcomes of Side-by-Side Self- Expandable Metal Stent Placement Using a 2-Channel Endoscope for Unresectable Malignant Hilar Biliary Obstruction Occurring After Billroth II Reconstruction (with Video).	Dig Dis Sci. 2018 Jun;63(6):1641-1646.	Original Article
2	Ishido K, Tanabe S, Azuma M, Katada C, Wada T, Yano T, Koizumi W.	消化器内科	Comparison of oral and intravenous lansoprazole for the prevention of bleeding from artificial ulcers after endoscopic submucosal dissection for gastric tumors: a prospective randomized phase II study (KDOG 0802).	Surg Endosc. 2018 Jun;32(6):2939-2947.	Original Article
3	Wada N, Hidaka H, Kondo M, Nakazawa T, Uejima H, Kubota K, Tanaka Y, Shibuya A, Irie K, Morimoto M, Suzuki M, Tanaka K, Koizumi W.	消化器内科	Aprepitant, palonosetron, with dexamethasone to prevent nausea and vomiting induced by cisplatin-based chemotherapy for hepatocellular carcinoma.	The Kitasato Medical Journal; 2018/09/ 48(2);81-87.	Original Article
4	Okamoto T, Katada C, Komori S, Yamashita K, Miyamoto S, Kano K, Seino Y, Hosono H, Matsuba H, Moriya H, Sugawara M, Azuma M, Ishiyama H, Tanabe S, Hayakawa K, Koizumi W, Okamoto M, Yamashita T.	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	A retrospective study of treatment for curative synchronous double primary cancers of the head and neck and the esophagus.	Auris Nasus Larynx. 2018 Oct;45(5):1053- 1060.	Original Article
5	Uojima H, Hidaka H, Tanaka Y, Inoue T, Onoue M, Wada N, Kubota K, Nakazawa T, Shibuya A, Fujikawa T, Nakayama T, Yamanoue H, Sung JH, Kako M, Koizumi W.	消化器内科	Wisteria floribunda agglutinin- positive human Mac-2 binding protein in decompensated cirrhosis.	J Gastroenterol Hepatol. 2018 Nov;33(11):1889- 1896.	Original Article

6.	Inoue T, Ito Y, Nishizawa N, Eshima K, Kojo K, Otaka F, Betto T, Yamane S, Tsujikawa K, Koizumi W, Majima M.	消化器内科	RAMP1 in Kupffer cells is a critical regulator in immune-mediated hepatitis.	PLoS One. 2018 Nov ;13(11):e0200432.	Original Article
7	Uojima H, Arase Y, Itokawa N, Atsukawa M, Satoh T, Miyazaki K, Hidaka H, Sung JH, Kako M, Tsuruya K, Kagawa T, Iwakiri K, Horie R, Koizumi W	消化器内科	Relationship between response to lusutrombopag and splenic volume.	World J Gastroenterol. 2018 Dec ;24(46):5271-5279.	Original Article
8	Tanaka Y, Masaki T, Uojima H, Ohtake T, Fujikawa T, Yamanouchi Y, Wada N, Kubota K, Hidaka H, Nakazawa T, Shibuya A, Aoyama T, J.H.Sung, Kako M, Kobayashi S, Takeuchi Y, Koizumi W	消化器内科	Glecaprevir and pibrentasvir combination therapy for hepatitis C virus-infected Japanese patients on hemodialysis.	Renal Replacement Therapy; 2018; 4:51.	Original Article
9	Uojima H, Kobayashi S, Hidaka H, Kinbara T, Fujikawa T, Nakayama T, Yamanoue H, Kanemaru T, Hashimoto T, Hyun Sung J, Kako M, Koizumi W.	消化器内科	Efficacy and Tolerability of Ombitasvir/Paritaprevir/Ritonavir in HCV Genotype 1-infected Elderly Japanese Patients.	Ann Hepatol. 2018 Dec ;18(1):109-115.	Original Article
10	Kobayashi K, Suzuki Y, Watanabe K, Oda K, Mukae M, Yamada A, Yamagami H, Nishimura A, Okamoto H. A	消化器内科	Phase 1, Multiple-Dose Study of Vedolizumab in Japanese Patients With Ulcerative Colitis.	J Clin Pharmacol. 2019 Feb;59(2):271-279.	Original Article
11	Betto T, Amano H, Ito Y, Eshima K, Yoshida T, Matsui Y, Yamane S, Inoue T, Otaka F, Kobayashi K, Koizumi W, Shibuya M, Majima M.	消化器内科	Vascular endothelial growth factor receptor 1 tyrosine kinase signaling facilitates healing of DSS-induced colitis by accumulation of Tregs in ulcer area.	Biomed Pharmacother. 2019 Mar;111:131-141.	Original Article
12	Ikeda Y, Inomata T, Kida K, Ako J, et al.	循環器内科	Different diuretic properties between tolvaptan and furosemide in congestive heart failure patients with diuretic resistance and renal impairment: a subanalysis of the K-STAR.	Heart Vessels. 2019 Mar;34(3):442-451.	Original Article

13	Nishinarita R, Niwano S, Fukaya H, Ako J, et al.	循環器内科	Burden of Implanted-Device-Detected Atrial High-Rate Episode Is Associated With Future Heart Failure Events - Clinical Significance of Asymptomatic Atrial Fibrillation in Patients With Implantable Cardiac Electronic Devices.	Circ J. 2019 Mar 25;83(4):736-742.	Original Article
14	Ishida M, Shinagawa H, Yamada Y, Ako J, et al.	循環器内科	Intramural Coronary Amyloidosis Mimicking Effort Angina Pectoris Preceding Fatal Heart Failure.	Circ J. 2019 Mar 25;83(4):837.	Original Article
15	Ishizue N, Niwano S, Niwano H, Ako J, et al.	循環器内科	Linagliptin Suppresses Electrical and Structural Remodeling in the Isoproterenol Induced Myocardial Injury Model.	Int Heart J. 2019 Mar 20;60(2):411-418.	Original Article
16	Hashimoto T, Minami Y, Kakizaki R, Ako J, et al.	循環器内科	Achilles tendon thickening is associated with disease severity and plaque vulnerability in patients with coronary artery disease.	J Clin Lipidol. 2019 Jan - Feb;13(1):194-200.	Original Article
17	Nabeta T, Inomata T, Ishii S, Ako J, et al.	循環器内科	Dilated cardiomyopathy with re-worsening left ventricular ejection fraction.	Heart Vessels. 2019 Jan;34(1):95-103.	Original Article
18	Ako J, Okumura K, Nakao K, et al.	循環器内科	Dual Anti-Thrombotic Therapy With Dabigatran After Percutaneous Coronary Intervention in Atrial Fibrillation - Japanese and East-Asian Subgroup Analysis of the RE-DUAL PCI Trial.	Circ J. 2019 Jan 25;83(2):327-333.	Original Article
19	Kakizaki R, Minami Y, Hashikata T, Ako J, et al.	循環器内科	Impact of underlying plaque type on strut coverage in the early phase after drug-eluting stent implantation.	Coron Artery Dis. 2018 Dec;29(8):624-631.	Original Article
20	Sato N, Minami Y, Shimohama T, Ako J, et al.	循環器内科	Vascular response and intrastent thrombus in the early phase after drug-eluting versus bare-metal stent implantation in patients with ST-segment elevation myocardial infarction: An observational, single-center study.	Health Sci Rep. 2018 Dec 5;2(1):e105.	Original Article
21	Fukaya H, Nishinarita R, Igarashi G, Ako J, et al.	循環器内科	Intra-isthmus atrial flutter visualized with ultra-high resolution mapping.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2018 Nov;29(11):1579-1580.	Original Article
22	Ishida M, Yamada Y, Mizutani T, Ako J, et al.	循環器内科	Cardiac Amyloidosis Mimicking Dilated Cardiomyopathy But Showing Relative Apical Sparing of Longitudinal Strain.	Circ J. 2018 Nov 24;82(12):3102-3103.	Original Article
23	Katamine M, Minami Y, Yanagisawa T, Ako J, et al.	循環器内科	Unexpected Measurement Error in Optical Coherence Tomography-Guided Percutaneous Coronary Intervention.	JACC Cardiovasc Interv. 2018 Nov 12;11(21):e179-e180.	Original Article
24	Igarashi T, Niwano S, Niwano H, Ako J, et al.	循環器内科	Linagliptin prevents atrial electrical and structural remodeling in a canine model of atrial fibrillation.	Heart Vessels. 2018 Oct;33(10):1258-1265.	Original Article
25	Fujiyoshi K, Yamaoka-Tojo M, Minami Y, Ako J, et al.	循環器内科	Endothelial Dysfunction Is Associated with Cognitive Impairment of Elderly Cardiovascular Disease Patients.	Int Heart J. 2018 Sep 26;59(5):1034-1040.	Original Article

26	Hashimoto T, Ako J, Nakao K, et al.	循環器内科	Pre-Procedural Thrombolysis in Myocardial Infarction Flow in Patients with ST-Segment Elevation Myocardial Infarction.	Int Heart J. 2018 Sep 26;59(5):920-925.	Original Article
27	Yoshizawa T, Niwano S, Niwano H, Ako J, et al.	循環器内科	Antiremodeling Effect of Xanthine Oxidase Inhibition in a Canine Model of Atrial Fibrillation.	Int Heart J. 2018 Sep 26;59(5):1077-1085.	Original Article
28	Asakura K, Minami Y, Sato D, Ako J, et al.	循環器内科	Intramural Hematoma Due to In-Stent Dissection Causing Acute Coronary Occlusion.	JACC Cardiovasc Interv. 2018 Aug 27;11(16):e131-e133.	Original Article
29	Meguro K, Kakizaki R, Hashimoto T, Ako J, et al.	循環器内科	Early Safety and Efficacy of Sapien 3 20 mm Transcatheter Heart Valve Implantation in Small Japanese Body Size.	Heart Surg Forum. 2018 Aug 14;21(5):E341-E344.	Original Article
30	Nakamura T, Kamiya K, Matsunaga A, Ako J, et al.	循環器内科	Prognostic usefulness of arm circumference and nutritional screening tools in older patients with cardiovascular disease.	Nutr Metab Cardiovasc Dis. 2018 Jul;28(7):743-748.	Original Article
31	Ikeda Y, Ishii S, Yazaki M, Ako J, et al.	循環器内科	Portal congestion and intestinal edema in hospitalized patients with heart failure.	Heart Vessels. 2018 Jul;33(7):740-751.	Original Article
32	Kaida T, Inomata T, Minami Y, Ako J, et al.	循環器内科	Importance of Early Diagnosis of Cardiac Sarcoidosis in Patients with Complete Atrioventricular Block.	Int Heart J. 2018 Jul 31;59(4):772-778.	Original Article
33	Katsura A, Minami Y, Tojo T, Ako J.	循環器内科	Neoatherosclerosis With Napkin Ring Calcification.	Circ J. 2018 Jul 25;82(8):2208-2209.	Original Article
34	Nagata T, Ikeda Y, Ishii S, Ako J, et al.	循環器内科	Improved hemodynamics following endovascular treatment for acquired aortic coarctation: A case report.	J Cardiol Cases. 2018 Jul 11;18(4):138-140.	Original Article
35	Ako J, Hibi K, Kozuma K, et al.	循環器内科	Effect of alirocumab on coronary atheroma volume in Japanese patients with acute coronary syndromes and hypercholesterolemia not adequately controlled with statins: ODYSSEY J-IVUS rationale and design.	J Cardiol. 2018 Jun;71(6):583-589.	Original Article
36	Fukaya H, Ako J.	循環器内科	Is Female Sex Always a Risk for Bleeding?	Circ J. 2018 Jun 25;82(7):1743-1745.	Original Article
37	Minami Y, Ako J.	循環器内科	Performance of drug-eluting stents in real-world clinical practice.	Int J Cardiol. 2018 Jun 1;260:49-50.	Original Article
38	Hashimoto T, Ako J, Nakao K, et al.	循環器内科	A lower eicosapentaenoic acid/arachidonic acid ratio is associated with in-hospital fatal arrhythmic events in patients with acute myocardial infarction: a J-MINUET substudy.	Heart Vessels. 2018 May;33(5):481-488.	Original Article
39	Fujita T, Inomata T, Yazaki M, Ako J, et al.	循環器内科	Hemodilution after Initial Treatment in Patients with Acute Decompensated Heart Failure.	Int Heart J. 2018 May 30;59(3):573-579.	Original Article
40	Hashimoto T, Ako J.	循環器内科	Report of the Annual Scientific Session of the American College of Cardiology (ACC) 2018, Orlando.	Circ J. 2018 May 25;82(6):1491-1496.	Original Article

41	Minami Y, Ako J.	循環器内科	How should we assess the performance of biodegradable polymer?	Int J Cardiol. 2018 May 15;259:69-70.	Original Article
42	Fujiyoshi K, Minami Y, Tojo T, Ako J, et al.	循環器内科	Lower limb ischemia due to popliteal artery compression by Baker cyst.	J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2018 Apr 25;4(2):99-101.	Original Article
43	Arinuma Y.	膠原病・感染内科	Antibodies and the brain: anti-N-methyl-D-aspartate receptor antibody and the clinical effects in patients with systemic lupus erythematosus.	Curr Opin Neurol. 31(3): 294-299, 2018.	Original Article
44	Simone Mader, Yoshiyuki Arinuma, Betty Diamond, etc	膠原病・感染内科	Understanding the antibody repertoire in Neuropsychiatric Systemic Lupus Erythematosus and Neuromyelitis Optica Spectrum Disorders: do they share common targets?	Arthritis Rheumatol. 2018 Feb;70(2):277-286. doi: 10.1002/art.40356. Epub 2018 Jan 9.	Original Article
45	Nagai T, Matsueda Y, Tomita T, Yoshikawa H, Hirohata S.	膠原病・感染内科	The expression of mRNA for peptidylarginine deiminase type 2 and type 4 in bone marrow CD34+ cells in rheumatoid arthritis.	Clin Exp Rheumatol. 36(2): 248-253, 2018.	Original Article
46	Matsueda Y, Arinuma Y, Nagai T, Hirohata S.	膠原病・感染内科	Synergistic enhancement of production of proinflammatory cytokines of human peripheral blood monocytes by anti-Sm and anti-RNP antibodies.	PLoS One. 2018 Dec 20;13(12):e0209282. doi: 10.1371/journal.pone.0209282. eCollection 2018	Original Article
47	Matsueda Y, Arinuma Y, Nagai T, Hirohata S.	膠原病・感染内科	Elevation of serum anti-glucoseregulated protein 78 antibodies in neuropsychiatric systemic lupus erythematosus	.Lupus Sci Med. 2018 Oct 10;5(1):e000281. doi: 10.1136/lupus-2018-000281. eCollection 2018	Original Article
48	Hirohata S, Sakuma Y, Matsueda Y, Arinuma Y, Yanagida T.	膠原病・感染内科	Role of serum autoantibodies in blood brain barrier damages in neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Clin Exp Rheumatol. 2018 Nov-Dec;36(6):1003-1007. Epub 2018 May 24.	Original Article
49	Igawa S, Shirasawa M, Fukui T, et al.	呼吸器内科	Efficacy of Platinum-Based Chemotherapy for Relapsed Small-Cell Lung Cancer after Amrubicin Monotherapy in Elderly Patients and Patients with Poor Performance Status.	Oncology. 2018;94(4):207-214.	Original Article
50	Nishinarita N, Igawa S, Kasajima M, et al.	呼吸器内科	Smoking History as a Predictor of Epidermal Growth Factor Receptor Tyrosine Kinase Inhibitors in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Harboring EGFR Mutations.	Oncology. 2018;95(2):109-115.	Original Article
51	Fukui T, Okuma Y, Nakahara Y, et al.	呼吸器内科	Activity of nivolumab and utility of neutrophil-to-lymphocyte ratio as a predictive biomarker for advanced non-small cell lung cancer: A prospective observational study.	Clin Lung Cancer 2018, May 5. pii: S1525-7304(18)30103-7.	Original Article

52	Igawa S, Shirasawa M, Ozawa T, et al.	呼吸器内科	Comparison of carboplatin plus etoposide with amrubicin monotherapy for extensive-disease small cell lung cancer in the elderly and patients with poor performance status.	Thorac Cancer. 2018;9(8):967-973.	Original Article
53	Sone H, Igawa S, Kasajima M, et al.	呼吸器内科	Amrubicin monotherapy for elderly patients with relapsed extensive-disease small-cell lung cancer: A retrospective study.	Thorac Cancer. 2018;9:1279-1284.	Original Article
54	Shirasawa M, Fukui T, Kusahara S, et al.	呼吸器内科	Prognostic significance of the 8th edition of the TNM classification for patients with extensive disease small cell lung cancer.	Cancer Manag Res. 2018;10: 6039-6047	Original Article
55	Igawa S, Nishinarita N, Takakura A, et al.	呼吸器内科	Real-world evaluation of carboplatin plus a weekly dose of nab-paclitaxel for patients with advanced non-small cell lung cancer with interstitial lung disease.	Cancer Manag Res. 2018;10:7013-7019.	Original Article
56	Fukui T, Ishihara M, Kasajima M, et al.	呼吸器内科	Questionnaire survey on patient awareness of invasive rebiopsy in advanced non-small cell lung cancer.	Thorac Cancer. 2019;10(3):501-507.	Original Article
57	Shirasawa M, Fukui T, Kusahara S, et al.	呼吸器内科	Efficacy and risk of cytotoxic chemotherapy in extensive disease-small cell lung cancer patients with interstitial pneumonia.	BMC Cancer. 2019;19(1):163.	Original Article
58	Nakahara Y, Fukui T, Shirasawa M, et al.	呼吸器内科	Intracranial Response to Nivolumab in a Patient with PD-L1-negative Lung Adenocarcinoma.	Intern Med. 2018;57(21): 3149-3152.	Case report
59	Hikomichi, I	放射線治療科	Risk factors for radiotherapy incidents: a single institutional experience. Med Dosim	Med Dosim •2019 Spring	Original Article
60	Yusuke Inoue, Kazunori Nagahara, Hiroko Kudo, et al.	放射線診断科	CT dose modulation using automatic exposure control in whole-body PET/CT: effects of scout imaging direction and arm positioning	Am J Nucl Med Mol Imaging. 2018 Apr 25;8(2):143-152.	Original Article
61	Yusuke Inoue, Toshimasa Hara, Tomomi Ikari, et al.	放射線診断科	Super-early images of brain perfusion SPECT using ¹²³ I-IMP for the assessment of hyperperfusion in stroke patients	Ann Nucl Med. 2018 Dec;32(10):695-701	Original Article
62	Yusuke Inoue, Hirofumi Hata, Ai Nakajima, et al.	放射線診断科	Quantitative evaluation of display contrast of Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance images: Effects of the flip angle and grayscale gamma value	Radiol Res Pract. 2019 Jan 16;2019:7630671.	Original Article
63	Yusuke Inoue, Kazunori Nagahara, Yuri Inoki, et al.	放射線診断科	Clinical evaluation of CT radiation dose in whole-body ¹⁸ F-FDG PET/CT in relation to scout imaging direction and arm position	Ann Nucl Med. 2019 Mar;33(3):169-176	Original Article
64	Hosoda K, Yamashita K, Moriya H,	上部消化管外科	Esophagogastric junction cancer successfully treated by laparoscopic proximal gastrectomy and lower esophagectomy with intrathoracic double-flap technique: A case report.	Asian J Endosc Surg. 2018 May;11(2):160-164.	Original Article

65	Araki I, Washio M, Yamashita K,	上部消化管外科	Robust vascular invasion concurrent with intense EGFR immunostaining can predict recurrence in patients with stage IB node-negative gastric cancer.	Surg Today. 2018 May;48(5):478-485.	Original Article
66	Kojima K, Nakamura T, Ohbu M,	上部消化管外科	Cysteine dioxygenase type 1 (CDO1) gene promoter methylation during the adenoma-carcinoma sequence in colorectal cancer.	PLoS One. 2018 May 10;13(5):e0194785.	Original Article
67	Harada H, Hosoda K, Moriya H,	上部消化管外科	Optimized lymph node dissection range during progression of lower thoracic esophageal squamous cell carcinoma in the latest therapeutic surgical strategy: A retrospective analysis.	Oncol Lett. 2018 Sep;16(3):3281-3289.	Original Article
68	Okamoto T, Katada C, Komori S,	上部消化管外科	A retrospective study of treatment for curative synchronous double primary cancers of the head and neck and the esophagus.	Auris Nasus Larynx. 2018 Oct;45(5):1053-1060.	Original Article
69	Hosoda K, Watanabe M, Yamashita K.	上部消化管外科	Re-emerging role of macroscopic appearance in treatment strategy for gastric cancer.	Ann Gastroenterol Surg. 2018 Oct 19;3(2):122-129.	Original Article
70	Kurosu T, Tanabe S, Hasegawa R,	上部消化管外科	A giant trichobezoar extracted by laparoscopic and endoscopic cooperative surgery (LECS).	Endosc Int Open. 2018 Dec;6(12):E1413-E1416.	Original Article
71	Yamashita K, Hosoda K, Nishizawa N,	上部消化管外科	Epigenetic biomarkers of promoter DNA methylation in the new era of cancer treatment.	Cancer Sci. 2018 Dec;109(12):3695-3706.	Original Article
72	Harada H, Hosoda K, Moriya H,	上部消化管外科	Carcinosarcoma of the esophagus: A report of 6 cases associated with zinc finger E-box-binding homeobox 1 expression.	Oncol Lett. 2019 Jan;17(1):578-586.	Original Article
73	Hosoda K, Washio M, Mieno H,	上部消化管外科	Comparison of double-flap and OrVil techniques of laparoscopy-assisted proximal gastrectomy in preventing gastroesophageal reflux: a retrospective cohort study.	Langenbecks Arch Surg. 2019 Feb;404(1):81-91.	Original Article
74	Kojima K, Minatani N, Ushiku H,	上部消化管外科	Prediction of onset of remnant gastric cancer by promoter DNA methylation of CDO1/HOPX/Reprimo/E-cadherin.	Oncotarget. 2019 Mar 29;10(25):2423-2434.	Original Article
75	Yamanashi, T	下部消化管外科	Laparoscopic surgery for locally advanced T4 colon cancer: Long-term outcomes and prognostic factors.	Surg Today 2018.05	Original Article
76	Kojima, K	下部消化管外科	Cysteine dioxygenase type 1 (CDO1) gene promoter methylation during the adenoma-carcinoma sequence in colorectal cancer	PLoS One 2018.05	Original Article
77	Kojima, K	下部消化管外科	Clinical significance of cancer specific methylation of the CDO1 gene in small bowel cancer	PLoS One 2019.01	Original Article

78	Tanaka, T	下部消化管外科	Critical relevance of genomic PRL-3/EGFR/c-myc pathway genes in liver metastasis of colorectal cancer	Oncol Letters 2019.1	Original Article
79	Yokoi, K	下部消化管外科	Epigenetic Status of CDO1 Gene May Reflect Chemosensitivity in Colon Cancer with Postoperative Adjuvant Chemotherapy.	Ann Surg Oncol 2019.02	Original Article
80	Nakamura T	下部消化管外科	Strategy to avoid local recurrence in patients with locally advanced rectal cancer	Radiation Oncol 2019.03	Original Article
81	Shibata M, Itatani K, Hayashi T他	心臓血管外科	Flow Energy Loss as a Predictive Parameter for Right Ventricular Deterioration Caused by Pulmonary Regurgitation After Tetralogy of Fallot Repair.	Pediatr Cardiol. 2018Apr;39(4)731-742	Original Article
82	Tanaka Y, Kitamura T, Kobayashi K,他	心臓血管外科	Papillary fibroelastoma of the left ventricular apex excised using a videoscopic technique.	J Card Surg. 2018May;33(5)277-279	Original Article
83	Sugimoto K, Miyaji K, Oka N他	心臓血管外科	Conventional repair of total anomalous venous drainage without primary sutureless technique: surgical tips to prevent pulmonary vein obstruction.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.2018 Jul;66(7)405-410	Original Article
84	Tanaka Y, Miyamoto T, Naito Y他	心臓血管外科	Sternal semi-closure using a bioresorbable osteosynthesis device: a new method for delayed sternal closure.	Surg Today.2018 Aug;48(8)748-755.	Original Article
85	Kitamura T, Torii S, Kobayashi K他	心臓血管外科	Samurai cannulation (direct true-lumen cannulation) for acute Stanford Type A aortic dissection.	Eur J Cardiothorac Surg.2018 Sep;54(3)498-503	Original Article
86	Sugimoto K, Hirata Y, Hirahara N,他	心臓血管外科	Mid-term result of atrioventricular valve replacement in patients with a single ventricle.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2018 Dec;27(6)895-900	Original Article
87	Kobayashi K, Kitamura T, Kohira S他	心臓血管外科	Cerebral oximetry for cardiac surgery: a preoperative comparison of device characteristics and pitfalls in interpretation.	J Artif Organs. 2018 Dec;21(4)412-418	Original Article
88	Kobayashi K, Kitamura T, Kohira S他	心臓血管外科	Correction to: Cerebral oximetry for cardiac surgery: a preoperative comparison of device characteristics and pitfalls in interpretation.	J Artif Organs.2018 Dec;21(4)419	Original Article
89	Kitamura T, Torii S, Kobayashi K他	心臓血管外科	Repeat surgical intervention after aortic repair for acute Stanford type A dissection.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.2018 Dec; 66(12)692-699	Original Article
90	Sugimoto K, Kohira S, Hayashi H 他	心臓血管外科	Markers of peripheral perfusion during high-flow regional cerebral perfusion for aortic arch repair.	J Thorac Cardiovasc Surg.2018 Dec;156(6)2251-2257	Original Article
91	Tanaka Y, Kitamura T, Irisawa Y,他	心臓血管外科	Total arch replacement using the Gelweave Lupiae graft for an aneurysm arising from Kommerell's diverticulum with an aberrant left subclavian artery and right-sided aortic arch.	Interact Cardiovasc Thorac Surg.2018 Aug;27(2)307-309	Case report

92	Nagata T, Ikeda Y, Ishii S,他	心臓血管外科	Improved hemodynamics following endovascular treatment for acquired aortic coarctation: A case report.	J Cardiol Cases. 2018 Jul;18(4)138-140	Case report
93	Inoue T, Kitamura T, Torii S,他	心臓血管外科	Cardiac hemangioma with epicardial infiltration.	J Thorac Dis. 2018 Sep; 10(9)E704-E706	Case report
94	Kobayashi K, Kitamura T, Torii S 他	心臓血管外科	Omental Flap for the Device Infection of the HeartMate II.	Kyobu Geka.2018 Oct;71(11)924-928	Case report
95	Matsushiro T, Fujimatsu T, Miyaji K	心臓血管外科	Isolated Mitral Valve Replacement was Effective in Patient with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy and Concomitant Mitral Regurgitation;Report of a Case.	Kyobu Geka.2019 Feb;72(2)149-152	Case report
96	Shiomi K, Kitamura E, Ono M,et al.	呼吸器外科	Pulmonary torsion after open esophagectomy for esophageal cancer: a case report and review.	J Thorac Dis. 2018 Jun;10(6):E462-E468	Case report
97	Mikubo M, Naito M, Matsui Y,et al.	呼吸器外科	Relevance of Intraoperative Pleural Lavage Cytology and Histologic Subtype in Lung Adenocarcinoma.	Ann Thorac Surg. 2018 Dec;106(6):1654-1660.	Original Article
98	Matsuo Y, Yoshida T, Yamashita K,et al.	呼吸器外科	Reducing DNA damage by formaldehyde in liquid-based cytology preservation solutions to enable the molecular testing of lung cancer specimens.	Cancer Cytopathol.2018; 126(Dec):1011-1021.	Original Article
99	Shibahara I, Sonoda Y, Suzuki H., et al	脳神経外科	Glioblastoma in neurofibromatosis 1 patients without IDH1, BRAF V600E, and TERT promoter mutations	Brain Tumor Pathol. 35(1):10-18, 2018	Original Article
100	Shibahara I, Hanihara M, Watanabe T, et al	脳神経外科	Tumor microenvironment after biodegradable BCNU wafer implantation: special consideration of immune system	J Neurooncol. 137:417-427, 2018	Original Article
101	Sato S, Dan M, Hata H, Miyasaka K, et al	脳神経外科	Safe Stereotactic Biopsy for Basal Ganglia Lesions: Avoiding Injury to the Basal Perforating Arteries	Stereotact Funct Neurosurg, 96(4):244-248, 2018	Original Article
102	Ken Asakawa, Hitoshi Ishikawa	医療衛生学部 視覚機能療法学	Pupil fields in a patient with early-onset postgeniculate lesions.	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology. 257 (2) : 441-443,2019	Letter
103	Ken Asakawa, Mami Nanno, Hitoshi Ishikawa, et al.	医療衛生学部 視覚機能療法学	Evaluation of pupil fields using a newly developed head-mounted perimeter in healthy subjects.	Journal of Glaucoma. 27 (9) : 807-815,2018	Original Article
104	Iwata Y, Handa T, Ishikawa H, et.al.	北里大学医療衛生学部 視覚機能療法学	Evaluation of the Effects of the Occlu-Pad for the Management of Anisometropic Amblyopia in Children.	Curr Eye Res.43(6):785-787,2018	Original Article

105	Iwata Y, Handa T, Ishikawa H, et al.	医療衛生学部 視覚機能療法学	Comparison between Amblyopia Treatment with Glasses Only and Combination of Glasses and Open-Type Binocular "Occlu-Pad" Device.	Biomed Res Int,Article ID2459696,2018	Original Article
106	Satoru Totsuka, Toshiaki Goseki, Hitoshi Ishikawa, et al	眼科	Investigated the Thickness of the Neural Layer in the Macula of the Retina in Individuals with Amblyopia	Ann Case Rep	Letter
107	M.Nakazawa, H Ishikawa, T Goseki, et al.	眼科	Is the ethambutol administration triggering factor for onset of Leber's hereditary optic neuropathy ? : A case report	Neuro-ophthalmology Japan,35(2),239-243,2018.	Case report
108	Manami Kawai, Toshiaki Goseki, Hitoshi Ishikawa, et al.	医療系研究科	Causes, background, and characteristics of binocular diplopia in the elderly	Japanese Journal of Ophthalmology;62(6), 659-666,2018	Original Article
109	Mikiko Takahashi , Toshiaki Goseki, Hitoshi Ishikawa, et al. and Nobuyuki Shojia,b	眼科	Compressive Lesions of the Optic Chiasm: Subjective Symptoms and Visual Field Diagnostic Criteria	Japanese Journal of Ophthalmology;62(6), 659-666,2018	Original Article
110	Tabito O, Chikatoshi K, Shouko K他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A retrospective study of curative for curative synchronous double primary cancers of the head and neck and the esophagus	Auris Nasus Larynx45(5):1053-1060.2018.8	Original Article
111	Matsuki Takashi他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Classification of tumors by imaging diagnosis and preoperative fine-needle aspiration cytology in 120 patients with tumors in the parapharyngeal space.	Head&Neck. P1-P5.2019.1.	Original Article
112	Masaomi Ikeda, Kazumasa Matsumoto, Takahiro Hirayama, et al.	泌尿器科	Selected High-Risk Patients With Upper Tract Urothelial Carcinoma Treated With Radical Nephroureterectomy for Adjuvant Chemotherapy: A Multi-Institutional Retrospective Study.	Clin Genitourin Cancer.16(3)669-675,2018.06	Original Article
113	Yasukiyo Murakami, Kazumasa Matsumoto, Masaomi Ikeda, et al.	泌尿器科	Impact of body mass index on the oncological outcomes of patients with upper and lower urinary tract cancers treated with radical surgery: A multi-institutional retrospective study.	Asia-Pacific journal of clinical oncology.14(4):310-317,2018.08.	Original Article
114	TETSUO FUJITA, TAKAHIRO HIRAYAMA, DAISUKE ISHII, et al.	泌尿器科	Efficacy and safety of sunitinib in elderly patients with advanced renal cell carcinoma.	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY.9: 394-398,2018.09.	Original Article
115	Hideyasu Tsumura, Hiromichi Ishiyama, Ken-ichi Tabata, et al.	泌尿器科	Long-term outcomes of combining prostate brachytherapy and metastasis-directed radiotherapy in newly diagnosed oligometastatic prostate cancer: A retrospective cohort study.	The Prostate,79(5):1-9,2018.11	Original Article

116	Dai Koguchi, Kazumasa Matsumoto, Masaomi Ikeda, et al.	泌尿器科	Investigation of estimated glomerular filtration rate and its perioperative change in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma: A multi-institutional retrospective study.	Asia-Pacific Journal of Clinical Oncology. Asia-Pacific Journal of Clinical Oncology, 14(5):e420-e427, 2018.12.(オンライン)	Original Article
117	Matsumoto K, Tabata K, Hirayama T, et al.	泌尿器科	Robot-assisted laparoscopic radical cystectomy is a safe and effective procedure for patients with bladder cancer compared to laparoscopic and open surgery: Perioperative outcomes of a single-center experience.	Asian Journal of Surgery, 42(1):189-196, 2019.01.	Original Article
118	Nomura Megumi, Matsumoto Kazumasa, Shimizu Yuriko, et al.	泌尿器科	TROY expression is associated with pathological stage and poor prognosis in patients treated with radical cystectomy.	Cancer Biomarkers, 24(1):91-96, 2019.02.	Original Article
119	Dai Koguchi, Kazumasa Matsumoto, Masaomi Ikeda, et al.	泌尿器科	Histologic variants associated with biological aggressiveness and poor prognosis in patients treated with radical cystectomy.	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, 49(4):373-378, 2019.02.	Original Article
120	Iwase, H. Furukawa, S. Hirasawa, T. et al.	婦人科	The Clinical Features of Recurrent Endometrial Cancer in Japan: Chemotherapy Instead of Radiotherapy as Postoperative Adjuvant Treatment	Int J Gynecol Cancer 2018; 28(8):1616-23.	Original Article
121	Yoshino, O. Yamada-Nomoto, K. Kano, K. et al.	婦人科	Sphingosine 1 Phosphate (S1P) Increased IL-6 Expression and Cell Growth in Endometriotic Cells	Reproductive sciences 2019(E-pub)	Original Article
122	Saiki H, Kuwata S, Iwamoto Y et al.	小児科	Fenestration in the Fontan circulation as a strategy for chronic cardioprotection.	Heart. 2019. Aug; 29(8):1016-1019	Original Article
123	Kuwata S, Takanashi M, Hashimoto M et al.	小児科	Thyroid Function in Patients With a Fontan Circulation.	Am J Cardiol. 2019 Mar 15; 123(6):979-983	Original Article
124	M Kenmochi, T Kogure, M Kaneko et al.	小児科	Experience with the use of a sheet-shaped body vibrometer in infants admitted to the neonatal intensive care unit.	J Transl Sci. 2019 doi: 10.15761/JTS.1000299. Volume 5	Original Article
125	Takashi Honda · Quan He · Fangfei Wang et al.	小児科	Acute and chronic remote ischemic conditioning attenuate septic cardiomyopathy, improve cardiac output, protect systemic organs, and improve mortality in a lipopolysaccharide-induced sepsis model.	Basic Research in Cardiology .2019.Mar ;114:4-11	Original Article
126	Nishida Takashi, Ebato Takasuke, et al.	小児科	Typhoid fever complicated by sepsis and disseminated intravascular coagulation in a 7-year-old boy.	The Kitasato Medical Journal.; 48:1132-136	Case report

計126件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ①研究者が、研究申請書及び実験計画書を倫理委員会事務局へ提出する。 ②臨床研究指針に基づき委員会にて審議ならび判定の後、臨床研究機関長が実施の可否を決定する。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容：産官学連携活動に関する北里大学利益相反マネジメント・ポリシーに基づき、利益相反に関する事項を審議する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年20回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」及び「2018年4月施行の「臨床研究法」についての説明および具体的事例を用いた研究実施手法の解説	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

北里大学病院は、1033床の病床を有する特定機能病院であり、地域における災害拠点病院、がん診療連携拠点病院として超急性期医療に対応するべく、各医療センターを中心にチーム医療を中心とした最先端の医療を提供している。

初期臨床研修後の病棟医（卒後3～6年）については、各科毎に「後期研修プログラム」を設け、上位者よりきめ細かい指導を受ける体制と、医師としての資質向上のため診療科の枠を超えた全病院的指導体制を築いている。

当院での研修を通じて、幅広い知識と技量を有した専門医を育成し、専門領域に関する継続的な探究心を身につけることを目標とする。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	166.0	人
-------------	-------	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
七里 眞義	内分泌代謝内科	教授	38 年	
竹内 康雄	腎臓内科	教授	29 年	
鈴木 隆浩	血液内科	教授	25 年	
山岡 邦宏	感染症内科	教授	26 年	
小泉 和三郎	消化器内科	教授	38 年	
阿古 潤哉	循環器内科	教授	27 年	
猶木 克彦	呼吸器内科	教授	28 年	
西山 和利	神経内科	教授	31 年	
宮岡 等	精神科	教授	37 年	
天羽 康之	皮膚科	教授	22 年	
井上 優介	放射線診断科	教授	29 年	
石山 博條	放射線治療科	教授	21 年	
渡邊 昌彦	外科	教授	39 年	
佐藤 之俊	呼吸器外科	教授	33 年	
宮地 鑑	心臓血管外科	教授	31 年	
隈部 俊宏	脳神経外科	教授	32 年	
高相 晶士	整形外科	教授	29 年	
武田 啓	形成外科・美容外科	教授	33 年	
岩村 正嗣	泌尿器科	教授	35 年	
山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	23 年	
庄司 信行	眼科	教授	30 年	
石倉 健司	小児科	教授	26 年	
恩田 貴志	産科・婦人科	教授	32 年	
岡本 浩嗣	麻酔科	教授	31 年	
浅利 靖	救急科	教授	32 年	
狩野 有作	臨床検査科	教授	28 年	
村雲 芳樹	病理診断科	教授	30 年	
青山 直善	総合診療部	教授	31 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容<ul style="list-style-type: none">1) 北里腫瘍フォーラム 2) 北里循環器セミナー 3) 北里血管フォーラム4) 職員研究発表会・研修の期間・実施回数<ul style="list-style-type: none">1) 年2回 2) 年5回 3) 年2回4) 年1回・研修の参加人数<ul style="list-style-type: none">1) 1回につき70名前後 2) 1回につき100名前後 3) 1回につき80名前後4) 60名前後
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容<ul style="list-style-type: none">1) 緩和ケア研修会・研修の期間・実施回数<ul style="list-style-type: none">2) 1回につき2日間・年3回開催・研修の参加人数<ul style="list-style-type: none">3) 1回につき40～50名前後

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 岩村 正嗣	
管理担当者氏名	事務部長 武石 年弘	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	
		各科診療日誌	人事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療情報管理室	
		看護記録	診療情報管理室	
		検査所見記録	診療情報管理室	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	診療情報管理室	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	医事課	
		閲覧実績	診療情報管理室	
		紹介患者に対する医療提供の実績	トータルサポートセンター	
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全推進室
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全推進室
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全推進室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質・安全推進室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床研究・先進医療支援室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療の質・安全推進室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質・安全推進室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療の質・安全推進室
		職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療の質・安全推進室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長 武石 年弘		
閲覧担当者氏名	総務課長 小林 健二		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
閲覧申請を受けたら、事務部長の承認を得て、総務課内にて閲覧する。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢、用語の定義） 2) 安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項 3) 安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策 5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6) 職員と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7) 患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針 8) その他医療安全の推進のために必要な方策 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故防止活動全般とインシデント及び医療事故発生時の対応に関すること 2) 医療事故防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 3) 医療事故防止のための情報収集と必要部門への伝達に関すること 4) 医療安全に係る各種ワーキング及びプロジェクト活動に関すること 5) 全死亡例及び医療事故の状況の確認、並びに対策が不十分な場合の研修、指導に関すること 6) 医療事故等の原因究明のための調査・分析に関すること及び分析結果を活用した改善方策の立案・実施・周知に関すること並びに改善方策の実施状況の調査、方策の見直しに関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント研修会（内部講師・外部講師、全職員対象） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施 2) リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施 3) 改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、マニュアルの改廃・作成等） 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本方針 院内管理体制 院内感染対策のための教育・研修 感染症発生状況報告体制 院内感染発生時の対応 患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針</p> <p>制定、改定について： 平成19年4月1日制定。平成22年2月24日付、平成23年2月22日付、 平成26年2月26日付平成28年2月24日付、平成30年2月28日付で一部改定</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容： 院内感染防止のための活動全般と感染症発生時の対応に関すること 院内感染防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 院内感染防止のための情報収集と現場部門への伝達に関すること 院内感染管理に係る各種ワーキング等の活動に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年93回
<p>・ 研修の内容（すべて）： 新規採用者、復職者、中途採用者への研修 全職員を対象とした医療安全研修会（平成30年度3回実施） 主に医師を対象としたICTセミナー（平成30年度2回実施） 看護補佐、診療アシスタント、ボランティア、奉仕団を対象とした感染対策研修会、 リンクスタッフを対象とした感染対策研修会 院内常駐委託業者を対象とした研修会 各種防護具等の着脱訓練、N95マスクフィットテスト 手指衛生に関する研修会 その他</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 検査結果速報体制の整備 ② 感染症・食中毒発生報告体制の整備 ③ サーベイランスによる発生状況の把握およびフィードバック ④ 針刺し・粘膜曝露事象発生時の対応体制の整備 <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「かんせん情報」の発行（平成30年度7回発行） ② 院内イントラネットに「かんせん情報」「抗菌薬感受性率一覧」「抗菌薬使用量」「感染症診療のための臨床分離情報」等を掲載し24時間の閲覧情報提供 ③ 広域抗菌薬、抗MRSA薬の使用届出制 ④ AST抗菌薬ラウンド（平成30年度回診数：延べ611例） ⑤ ICT環境ラウンド（平成30年度46回） ⑥ 年間を通じた、感染、病原体、抗菌薬に関するコンサルテーション ⑦ 耐性菌や流行感染症に対する予防・対策 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 薬剤管理について 薬物の乱用について 開催日：2018年4月3日 場所：IPE棟ホール 11:00～11:30 参加者：全職入職員 講師：薬剤部 厚田幸一郎 ・ 静脈栄養 開催日：2018年9月13日 場所：集団指導室 17:00～18:00 参加者：病棟NSTおよび職員 講師：薬剤部 NST委員 ・ がん疼痛に使用する医療麻薬の適正使用と管理 開催日：2018年10月2日 場所：臨床講義室 No.1 16:30～17:10 参加者：看護師、薬剤師 講師：薬剤部 本間 雅士、小泉 亮輔 ・ 抗凝固薬・サプリメント手術前の適正使用について 開催日：2018年10月31日 場所：臨床講義室 No.1 16:30～17:10 参加者：看護師、薬剤師 講師：薬剤部 赤嶺 聡彦 ・ 皆で学ぼう安全な注射薬投与 開催日：2018年11月28日 場所：臨床講義室 No.1 16:30～17:10 参加者：看護師、薬剤師 講師：薬剤部 奥脇 達也、武道 涼平 ・ 実例から学ぶインスリン攻略法 開催日：2019年1月29日 場所：臨床講義室 No.1 16:30～17:10 参加者：看護師、薬剤師 講師：薬剤部 宮坂 薫 ・ 抗がん剤の安全対策について 開催日：2019年2月15日 場所：臨床講義室 No.1 16:30～17:10 参加者：看護師、看護補佐、薬剤師 講師：薬剤部 田村 和敬 看護部 八柳 千春 ・ なくそう！ インシデント・アクシデント 開催日：2019年3月1日 場所：臨床講義室 No.1 17:00～17:40 参加者：看護師、薬剤師 講師：薬剤部 森 彩夏 	

<p>③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 : <p>医薬品安全管理責任者は年に2回(6ヶ月に1回)手順書に基づく業務の実施状況を確認。また、職員間の定期的な確認の報告に対し、必要に応じて改善を指示し、改善の実施を確認する。</p>
<p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) : <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認等の医薬品の使用に関し、使用の状況の把握のための体系的な仕組みを構築し平成 28 年 9 月 1 日より運用開始をしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 314 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 新規採用医療機器の導入時の研修 ② 特定機能病院における定期的研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工呼吸器 ・ 閉鎖式保育器 ・ 血液浄化装置 ・ 除細動器 ・ 人工心肺装置 など 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (○有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 定期点検（外観点検、機能点検、作動点検、電気的安全性点検）：機器全般 ② 終了時点検（作動点検、外観点検）：機器全般 ③ 安全ラウンド点検（作動点検、使用法確認）：人工呼吸器、生体情報モニタなど ④ 故障時点検（外観点検、機能点検、作動点検）：機器全般 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① リスクマネジメント委員会での報告（医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討） ② 院内広報誌（リスクマネジメントニュースなど）での広報（医療機器安全性情報等） ③ インシデントに基づいた研修会の開催 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副院長(危機管理・医療安全担当)が医療安全管理責任者の職務を担い、医療安全管理部門、リスクマネジメント委員会(医療安全管理委員会)、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(8名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1) 添付文書の更新への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤部内には、週1回発行されるホットラインに掲載し情報を徹底。その内容に則って調剤監査を行う。病棟担当者もそれをもとに処方監査を行う。 ・特に重要と考えられるものは医薬品適正使用委員会(2か月に1回開催)で報告。 ・院内のオンライン医薬品情報は定期的(1回/月)に更新されるが、周知に緊急を要する場合は更新を待たずに、マニュアルで上書き修正する。 <p>2) イエローレター、ブルーレター発出時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イエローレター、ブルーレターが発出された場合は、その時点でその医薬品を使用している医師をリストアップし、直接連絡を入れる。 ・処方時にポップアップで表示。 ・医師には全員イエローレター、ブルーレターをポストに投函。 ・各病棟(看護係長、医師カンファレンスルーム)には病棟担当者が配布・説明。 ・外来は全診察室内に掲示。 ・イエローレターは、医療安全情報として全職員に回覧し、回覧の有無の確認も実施。 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認医薬品等の使用については、「未承認新規医薬品等審査担当」を置き、医療安全管理部門に所属する医師、薬剤師を含めて構成した「未承認新規医薬品等評価小委員会」において対応。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：心臓血管外科 ， 職種 医師) (所属：循環器内科 ， 職種 医師)</p> <p>(所属：皮膚科 ， 職種 医師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する</p>	

<p>規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ○ 遵守状況の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「北里大学病院・東病院における説明と同意に関するガイドライン」(平成27年11月1日制定、平成30年6月1日最終改正)に基づき、定型の説明・同意文書の作成時に、標準的説明内容、記載項目、表現等を確認する。 ・ 説明・同意文書の使用に関し、署名等の実施を確認する。 ・ 説明内容等の診療録記載について、頻度等を確認する。 ○ 指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明と同意のあり方ならびにその方法等についての指導 ・ 定型の説明同意文書の作成時に、標準的説明内容についての指導 ・ 説明内容等の診療録への記載方法についての指導 ・ 説明と同意に関する研修会を開催

<p>⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 記載内容の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての退院患者の診療録を対象とし、次の事柄を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> － 誤記載(部位・日付、変換ミス等) － 有害事象の発生が疑われる記載(インシデント報告の有無を医療の質・安全推進室へ照会する) － CV穿刺、DVT・PE予防等の有害事象の再発防止策に関わる記載 ・ 医師・看護師・コメディカル・診療情報管理士・事務等により、無作為抽出した診療録を対象とし、定期的に記録内容を確認する。 ○ 指導等の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子カルテの適切な使用方法を始め、診療録の記載方法について指導する。 ・ 診療録の誤記載の修正等について指導する。 ・ 作成文書等の未作成および不備等について指導する。 ・ CV穿刺、DVT・PE予防等の有害事象の再発防止策に関わる記載の不備等について、医療の質・安全推進室を介して周知等を行う。 	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<p>⑥ 医療安全管理部門の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従(8)名、専任()名、兼任(6)名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従(1)名、専任()名、兼任(6)名 うち薬剤師：専従(1)名、専任()名、兼任()名 うち看護師：専従(3)名、専任()名、兼任()名 	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無

うち事務職員：専従（3）名、専任（）名、兼任（）名

うち臨床工学技士：専従（）名、専任（）名、兼任（1）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

リスクマネジメント委員会の運営に関する業務
医療事故防止のための事例情報収集・分析・対策立案・フィードバックに関する業務
医療安全のための職員研修に関する業務
医療安全管理に関するマニュアル・ハンドブック等の整備に関する業務
患者相談窓口担当者との支援、連携に関する業務
医療事故発生時や事故後の対応支援及び指導に関する業務
医療訴訟、和解等に関する業務
医療安全管理の適正な実施における疑義による公益通報への対応業務
医療安全監査委員会に関する業務
全死亡例及び医療事故の報告に関する業務
医療安全に資する診療内容及び医療安全の認識のモニタリング業務
他の特定機能病院との相互立入に関する業務
他

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
医療安全管理部門に配置する職員のうち看護師3名を医療安全管理者に任用しており、いずれも専任の医療に係る安全管理を行う者の基準を満たしている。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

ラウンド（院内ラウンド）での職員へのヒアリング
インシデント報告（あいれば）の報告内容の確認
診療情報管理士による診療録の内容確認
各種テンプレート（中心静脈カテーテル、深部静脈血栓）の入力情報の確認

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

高難度新規医療技術に関する情報収集
高難度新規医療技術提供に関する院内実施体制の確認
高難度新規医療技術実施申請への対応
高難度新規医療技術評価小委員会、臨床研究及び新規医療等管理委員会の運営
高難度新規医療技術の実施状況の確認
高難度新規医療技術に係わる規程の改正 他

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（10件）、及び許可件数（10件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

- ・活動の主な内容：
 - ①未承認新規医薬品等の使用に関する院内体制整備
 - ②未承認新規医薬品等の使用申請の審査
(未承認新規医薬品等評価小委員会、臨床研究及び新規医療等管理委員会)
 - ③未承認新規医薬品等の使用状況の確認
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年1,546件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年153件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
報告の実施状況の確認及び確認結果の管理者への報告。実施状況が不十分な場合の職員に対する研修及び指導。
毎月、RST・RRT（呼吸療法サポートチーム・ラピッドレスポンスチーム）の活動状況より、死亡症例の報告がなされ、対応についての確認を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：関西医科大学附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：関西医科大学附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
 - ・主治医が望んだにもかかわらずAiが施行できなかったことはなく、副院長の許可がネックとなった事例はないが、Aiを実施する手順の周知や同意書の整備が遅れているのが現状であり、他施設の実施要項や同意書を参考に、主治医が必要時にAiを想起し、躊躇なく手続きに入れる環境の整備を進めて行く予定。
 - ・ピッキングマシン導入を含めた各種システム対応の必要性については強く認識しているが、早急な導入については難しい状況にある。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

現場で初期対応後、患者相談窓口引継がれ、患者相談窓口と医療安全管理部門が協働して適切に対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

各種の医療安全研修会
(チーム STEPPS、転倒・転落の防止、一次救命処置、医療安全セミナー)
新規採用者研修
(研修医・コメディカルのオリエンテーション時)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全管理者養成研修会、特定機能病院管理者研修会を受講

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 高度な医療安全の確保に関する法的責務を負っており、医療安全管理について十分な知見並びに病院運営に関し次の資質・能力を有し、リーダーシップを発揮できる者とする。 (1) 高度な医療安全確保のために必要な資質・能力。 (2) 高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法 病院ホームページへ掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	(<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法 病院ホームページへ掲載 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
岩村 正嗣	泌尿器科		大学病院に勤務する医師及び歯科医師で科長相当職以上の者の中から互選された者	(<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
高相 晶士	整形外科		大学病院に勤務する医師及び歯科医師で科長相当職以上の者の中から互選された者	(<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科		大学病院に勤務する医師及び歯科医師で科長相当職以上の者の中から互選された者	(<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
田邊 聡	消化器センター		大学病院に勤務する医師及び歯科医師で科長相当職以上の者の中から互選された者	(<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
別府 千恵	看護部		大学病院専任職員で医師並びに歯科医師以外の科長、技師長、師長及び課長相当職以上の中から互選された者	(<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)

熊澤 豊彦	事務部	○	大学病院専任職員で医師並びに 歯科医師以外の科長、技師長、師 長及び課長相当職以上の中から 互選された者	有・無
棟方 伸一	臨床検査部		大学病院専任職員で医師並びに 歯科医師以外の科長、技師長、師 長及び課長相当職以上の中から 互選された者	有・無
厚田 幸一郎	薬剤部		大学病院専任職員で医師並びに 歯科医師以外の科長、技師長、師 長及び課長相当職以上の中から 互選された者	有・無
海野 信也	医学部		医学部教授会の互選による者	有・無
佐藤 之俊	医学部		医学部教授会の互選による者	有・無
武田 啓	医学部		医学部教授会の互選による者	有・無
渡邊 昌彦	医学部		医学部教授会の互選による者	有・無
七里 眞義	医療系研究科		医療系研究科長が専任教授の中 から推薦する者	有・無
松原 肇	薬学部		薬学部長が専任教授の中から推 薦する者	有・無
三藤 久	看護学部		看護学部長が専任教授の中から 推薦する者	有・無
片桐 真人	医療衛生学部		医療衛生学部長が専任教授の中 から推薦する者	有・無
木内 哲也	相模原市医師会 (田名整形外科ク リニック)		本法人と特別の関係がある者以 外の者で、大学病院が選出した外 部有識者	有・無
高野 靖悟	相模原市病院協 会 (相模原協同病 院)		本法人と特別の関係がある者以 外の者で、大学病院が選出した外 部有識者	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 管理及び運営に関する事項 (2) 規程等の制定及び改廃に関する事項 (3) 診療、教育及び研究に関する事項 (4) その他重要事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) 部科長会・診療部会・管理部会にて報告 (2) 院内サイトにて会議資料を公開 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法 院内サイトにて公開 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有・(無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
岩村 正嗣	○	医 師	病院長
浅利 靖		医 師	副院長 (診療担当)
佐藤 之俊		医 師	副院長 (教育・研修統括担当)
高相 晶士		医 師	副院長 (医療支援・渉外担当)
武田 啓		医 師	副院長 (人事・労務環境担当)
阿古 潤哉		医 師	副院長 (危機管理・医療安全担当)
別府 千恵		看護師	副院長 (患者支援・チーム医療担当) ・ 看護部長
武石 年弘		事務職	事務部長
宮岡 等		医 師	北里大学東病院長
福田 倫也		医 師	北里大学東病院副院長 (診療担当)
長沼 英明		医 師	北里大学東病院副院長 (人事・教育・危機管理・医療支援担当)
油谷 和子		看護師	北里大学東病院看護部長
座間 規行		事務職	北里大学東病院事務長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
病院ホームページへ掲載
- ・ 規程の主な内容
地位、職務権限、選任、任期、代理、改廃等について定めている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副院長（診療担当）は各部門を指揮監督する。別に定めた副院長（特命担当）は、あらかじめ与えられた担当職務を遂行する。
 - ・ 病院長不在又は事故あるときは、副院長（診療担当）がその職務を代理する。なお、副院長（診療担当）に事故あるときは、あらかじめ定めた順序により、副院長（特命担当）がその職務を代理する。
 - ・ 病院長補佐は、病院長の特命事項を分掌し、担当職務に関し必要な提案等を行い、病院長の補佐としてその職務を遂行する。
 - ・ 経営企画室は、病院長を補佐し、医療事業推進のための総合的戦略を立案する。また、その他病院長が必要と判断する業務を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 次世代リーダー育成を目標としたマネジメント研修（スクーリング型研修・全6回/3ヵ月）を開催し、社会人として必要不可欠な論理的思考を・問題解決力・仮説検証力、コミュニケーション力の習得を目指している。
 - ・ 若手管理者リーダーシップ研修会（医師・コメディカル・事務職対象）を開催し、当院の未来を支えるリーダーとして、病院全体における協働をリードする考え方と手法を身につけることを目的としている。
 - ・ 法人全体で将来構想（中期計画）検討委員会を設置し、医師・事務職等の将来を担う中堅を中心とした委員構成で中期計画の検討を行うにあたり、中間キャンプを開催し、講師を招いての講演及び研修会を実施している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					(有) 無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1) 医療安全業務が適切に実施されているか、医療安全に係る取り組み状況を確認する。</p> <p>2) 医療安全管理業務が適切に実施されていない場合又は、適切に実施されない恐れがある場合などは、必要に応じて是正措置を講じるよう助言する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有) 無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有) 無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有) 無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有 (無))</p> <p>・ 公表の方法：法人ホームページにて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
平原 史樹	横浜市病院経営本部長	○	大学病院等の医療機関における医療安全業務の経験	有 (無)	医療に係る安全管理に関する識見を有する者
海野 宏行	みなと総合法律事務所		弁護士としての経験。	有 (無)	法律に関する識見を有する者
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML		医療現場により良いコミュニケーションを築く豊富な活動経験	有 (無)	医療を受ける者
和田 仁孝	早稲田大学大学院法務研究科		医療メディエーターとしての豊富な経験	有 (無)	学識経験を有する者
花井 恵子	神奈川県看護協会		大学病院における医療安全業務の経験	(有) 無	医療に係る安全管理に関する識見を有する者

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
理事長直属の監査室を設置し、内部監査を実施している。
- ・専門部署の設置の有無（有 無）
- ・内部規程の整備の有無（有 無）
- ・内部規程の公表の有無（有 無）
- ・公表の方法
教職員専用サイトにて公開している。

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人北里研究所の理事をもって組織し、法人の業務は理事会で決定する。 理事総数の3分の2以上の理事が出席し、理事総数の過半数をもって決する。 ・ 会議体の実施状況（年20回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有）無）（年17回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有）無） ・ 公表の方法 教職員専用サイトにて公開している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年7件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 職員に冊子、カードを配付